

2005年度事業報告書

1. 事業報告全般:

長く続いた景気低迷からようやく企業業績の好転が見られるようになった。情報管理・サービス部門においても従来型の運営からインターネットを活用したデジタル情報の管理・サービスへの運営へと改革が図られてきた。電子ジャーナルの利用が普及し、またデジタルアーカイブ、デポジトリの進展が台頭してきたところである。個人情報、セキュリティー、著作権、複写権などの対応もデジタル情報対応へと引き続き議論されている。このような機関内外の環境変化の中で、インターネット環境をベースとした情報部門の取り組みはさらなる転換が求められている。

当協会として、学術情報の流通、サービス運営に携わる人材の育成に取り組み、研修事業、情報検索能力試験、シンポジウムおよび研究活動としての OUG, SIG などの活動を進め、その目的を達成したと評価できる。

1) 研修事業が昨年に続き「サーチャー講座21」をはじめ盛況であった。

人材育成に向けてのセミナー、講習会については、西日本地区も含め盛況であった。

特に、西日本委員会企画の「サーチャー講座21」については、今年度も東京地区でも実施し成果をあげた。また、受講を機に非会員参加者を会員に勧誘するなど会員拡大に貢献した。

情報検索基礎能力試験対策セミナーは、今年度は西日本地区でも開催し横展開の成果が得られた。全般的に特許分野、著作権・個人情報関連で関心が強く持たれている。

2) 情報検索能力試験で受験者増となり事業拡大ができた。

2005 年度も、大学への試験案内で重点配布を行った(試験会場周辺の大学に厚く配布)。

また、つくば会場の復活、大学司書課程からの受験者増があり、初めて1,000名を超える試験申込みとなった。

実施に当たっては、認定試験実施委員会、西日本委員会、研修委員会をはじめ多くの会員の協力が得られ、協会を挙げての事業推進ができた。

しかしながら事業収益面では大幅な増とはならず、試験方法と合わせて検討課題となった。

2. 2005年度役員および担当 () は2005年度選出)

理事(東日本地区)

小河 邦雄 OUG(正)

梶 正憲 広報委員会、運営委員会

木内 良一 副会長、運営委員会、事業推進委員会、表彰委員会

木本 幸子 出版委員会(正)、運営委員会

鈴木 博道 研修委員会(副)

立花 肇 会長、運営委員会

田村 紀光 事務局長、運営委員会、事業推進委員会

時実 象一 OUG(副)、著作権問題委員会

長塚 隆 試験実施委員会(副)
 西垣 幸雄 事業推進委員会(副)
 三沢 一成 出版委員会(副)
 平井 邦造 副会長、事業推進委員会(正)、複写権問題対策委員会
 松谷 貴己 試験実施委員会(正)
 山口 哲雄 SIG
 山崎 久道 会誌編集委員会
 吉井 隆明 研修委員会(正)

理事(西日本地区)

羽田 幸代 研修委員会
 村山 博一 西日本委員会
 田窪 直規 "
 三村 智子 "

監事

土谷 久
 真銅 解子

評議員(東日本地区)

大塩 稔	大田原 章雄	岡谷 大	岡本 真	小山 憲司
岡安 涉子	小野寺 夏生	高山 正也	手塚 久男	相良 久次郎
杉山 尚子	東郷 功	殿崎 正明	豊田 恭子	長縄 友子
長尾 頼子	原田 智子	深津 義子	藤田 節子	松下 茂
三浦敬子	三浦 勲	門條 司	山地 康志	柳 一美

評議員(西日本地区)

稲葉 洋子	岡 紀子	河塚 幸子	高橋 和子	田中 邦英
馬場 健次	浜田 行弘	原 茂樹		

3. 会員異動

種別	2004 年度末	入会	脱会	増減	2005 年度末
維持会員	74	3	4	-1	73
特別会員	126	5	3	2	128
普通会員	1,478	134	163	-29	1,449
学生会員	65	8	23	-15	50
合計	1,743	150	193	-43	1,700

4. 会議

- 1) 通常総会 ----- 1回
第48回通常総会および協会賞表彰式 2005年5月20日(金)
- 2) 理事会 ----- 6回
- 3) 評議員会 ----- 1回 (2006年2月28日(火))

4) 委員会

運営委員会 ----- 10回	シンポジウム実行委員会 --- 8回
表彰者選考委員会 ----- 1回	認定試験実施委員会 --- 11回
事業推進委員会 ----- 8回	著作権問題委員会 ----- 2回
会誌編集委員会 ----- 20回	複写権問題対策委員会 ----- 4回
出版委員会 ----- 1回	西日本委員会 ----- 6回
研修委員会 ----- 5回	OUG、SIG 各報告ページに記載

5 刊行事業

5.1 会誌刊行事業

会誌刊行事業における2005年度の目標の一つは、前年度に引き続いて安定した発刊(当月1日)および配送であった。結果としてほぼ全号達成された。

会誌の内容については、もう一つの目標である、特集を中心とした編集方針を推進し、適宜投稿論文を加え、情報担当者の世界で話題になっているトピックをかなり深く掘り下げることができた。情報担当者にとって、必要な知識を得るための最新の情報源として、あるいは必要なときに直ちに参照できるように組織化された編集を遂行することができた。

また、情報プロフェッショナルシンポジウムでのラウンドミーティングのパネリストの発言趣旨を掲載した。

連載は、全委員による協議の結果による企画案は作成したものの、連載開始には至らなかった。これは、会誌編集委員の連載担当者の多忙によるものもあるが、別途新たな連載企画があったものの、その連載執筆者の都合により順延したことによる。順延した新連載については、執筆者の都合もついたことから、2006年度始めから1年間の予定で連載を予定している。

【特集】

2005年

- 4月号 プロフェッショナル・ディベロップメント
- 5月号 会議録・会議資料
- 6月号 電子ジャーナルの現状
- 7月号 図書館の発信情報は効果的に伝わっているか?
- 8月号 機械翻訳
- 9月号 サブジェクトライブラリアンは必要か
- 10月号 学術情報リポジトリ
- 11月号 図書館のリニューアル

12月号 国立大学法人化

2006年

1月号 ノウハウの蓄積と伝達

2月号 図書館アイデンティティ

3月号 デジタル・レファレンス・サービス

【コラム】 INFOSTA Forum

5.2 一般刊行事業

今年度の一般刊行事業については、これまでに刊行した出版物の増刷や販売促進、そして情報検索基礎能力試験の経年による変化に対応すべく、関連書籍の改訂を重視した。

改定作業については、今年度より着手し、来年度に改訂版を発行する予定である。

また要望のあった一般書店などでの販売に対応できるよう、その方法について調査を行った。

6. 普及研修事業

6.1 研修会・セミナー

昨年度に初の取り組みとして行った大阪、東京の両地区で開催した情報検索応用能力試験2級の受験対策セミナー実施が受験希望者に寄与したことから、今年度は基礎能力試験対策セミナーについても同様の取り組みを行い、昨年度に引き続き大きな成果を得た。

また、見学会にセミナーを組み入れた企画や情報部門が現実的な問題として抱えているシステムリプレースに関わるセミナーを企画し、参加者を増やすとともに INFOSTA の知名度向上に貢献した。

研修一覧

名称	期日	会場	参加者数
オープンアクセスの現状と将来性	2005/5/9	東京	17
見学会「関西電力・国際美術館図書室」	2005/5/20	大阪	30
見学会「国文学研究資料館」	2005/6/22	東京	11
インターネット上の特許情報の有効活用	2005/7/11	東京	50
著作権法・個人情報保護法と図書館	2005/7/29	大阪	64
情報検索能力試験 基礎対策セミナー	2005/8/27	大阪	29
情報検索能力試験 基礎対策セミナー	2005/9/3	東京	35
サーチャーター講座 21	2005/9/10-11	東京	65
サーチャーター講座 21	2005/9/23-24	大阪	46
情報部門および大学図書館の新しい役割	2005/10/4	東京	13
PubMed 活用術	2005/11/2	大阪	32
見学会・セミナー「印刷博物館」	2006/2/10	東京	40
目指せ！次世代図書館	2006/3/10	東京	58

6.2 シンポジウム

2005年度も(独)科学技術振興機構との共催で「第2回情報プロフェッショナルシンポジウム」を開催し、400名を超える参加者を得て盛況のうちに実施できた。

特別講演はハワイ大学 ピーター・ヤチヨ博士による「引用データによって強化された学術情報データベースをいかに評価するか」の演題で行なわれ会場が満席になる盛況であった。

さらに 同博士による特別ワークショップ「引用関連コンテンツとソフトウェアの比較と評価の実際」も行われ特別講演と関連のテーマであり、好評であった。

また、ラウンドミーティング「日本・アジアにおける電子ジャーナル化の現状」を開催し多くの関心を集めた。

会期 : 2005年11月10日(木)～11日(金)

会場 : 日本科学未来館(お台場)

一般発表 : 10セッション 32件

しかしながら、海外からの特別講演講師関連費用がかさんで事業収支が赤字となった。今後は事業収入を確保する計画と実行が強く望まれる。

6.3 情報検索能力試験

新方式の情報検索能力試験の実施3年目となり、2004年度の実施状況を踏まえ、運用上の改善、広報の改善を行い、その結果2005年度は受験者数が971名、前年比123名増となり事業拡大が達成できた。

- ・運営面の改善としては、活発なる委員会活動、委員会メーリングリストの有効活用およびマニュアルの改善であった。
- ・広報(受験案内)面の改善としては、ポスター、チラシを試験会場近辺の大学に重点的に送付した。
- ・会場設定の改善としては、2005年度は筑波会場を追加し、受験会場は全国7会場とした。
- ・試験後は、予定通り早期に合格発表を行い、「合格を祝う会」を東京地区(3月9日:25名参加)と大阪地区(3月11日:17名参加)で開催した。新規会員およびOUG入会への橋渡しとした。継続的課題として、試験問題の作成、採点の労力を踏まえ、より円滑な試験運営の検討を行った。

1) 2005年度「情報検索応用能力試験」実施結果

1級および2級の受験者数と合格者数、合格率を表に示す。

1級受験者数は2004年度より増加し、2級受験者数は減少した。

2005 年度「情報検索応用能力試験」実施結果

(カッコ内は 2004 年度実績)

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
2級	269 名 (200 名)	90 名 (88 名)	43% (44.0%)	2005-11-27	東京(1) 東京(2) 名古屋
1級	29 名 (37 名)	11 名 (10 名)	38% (27.0%)	2005-11-27(一次)	大阪 福岡 上田 つくば
				2006-02-19(二次)	東京

2) 2005 年度「情報検索基礎能力試験」実施結果

(カッコ内は 2004 年度実績)

ポスター、チラシを試験会場近辺の大学に重点的に送付した結果、受験者が大幅増となった。

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
基礎	673 名 (611 名)	551 名 (489 名)	82% (80.0%)	2005-11-27	東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田、つくば

7. 調査研究事業

7.1 受託調査、分類付与

- 1) 受託調査はなかった。
- 2) 分類付与 : 「日立インターメディック」への UDC 分類付与

7.2 標準化活動

- 1) 国内外の標準化の動向に対処するため国内外の動向調査に努めた。
- 2) 日本工業標準調査会情報部会 ISO/TC46 情報とドキュメンテーション専門委員会に委員を派遣して協力した。
- 3) SIST 委員会に委員を派遣した。

7.3 著作権活動

1) 著作権問題委員会

運営委員会からの諮問により、会誌の著作権のあり方について、委員会(担当理事も参加)で討議した。

まず、協会において最近発生しているいくつかの問題について報告・説明を受ける一方、現在、雑誌の著作権をめぐる起こっているさまざまな動きをレビューした。

それらを踏まえたうえで、会誌にとっての今後の著作権のあり方の一つの方向を示し、その結果を運営委員長あてに答申した。

2) 複写権問題対策委員会

2005年度は、著作権法改正などの動きをフォローしつつ、文化審議会著作権分科会委員に対する「著作権法改正検討に関する要望」などを提出し、現状に関する的確な理解を求めることに努力した。また、法制問題小委員会や著作権等管理事業法の見直しなどに関する意見募集に対しても意見書の提出を行った。

8. その他の委員会、事業活動

8.1 事業推進委員会

事業推進委員会は、会誌編集委員会、出版委員会、研修委員会、試験実施委員会と西日本委員会の各委員長および会長・副会長・専務理事、選出された理事並びに事業推進委員会を担当する正・副の理事によって構成される委員会であり、協会の行っている上記5つの委員会活動を事業化の視点から統括し推進していくことを目的としている。

2004年度の報告でも触れたが、各委員会活動を支えてきた基盤がどうしても“ボランティア・ベース”になってくると、“事業化”という収支が具体的な数字で示される目的とを同時に達成することが困難な状況になってくる。この問題はどの委員会でも抱えているわけではあるが、特に企画そのものが収支に大きく影響をする出版活動や研修会活動にとっては、委員会の“活動の意義”とは別に“収支バランス”という目的を強いることになり、担当する委員個人への多大な負担となってしまった。その結果、委員へのなり手の減少という委員会活動そのものを阻害する要因になりかねない可能性を含んでいる。

今年度はこうしたことを踏まえて、まずは各委員会活動そのものを疲弊させないようにすることを前提にして、伸ばせるところは更に伸ばしていくという両面作戦を取るように心がけた。各委員会では、活動に参加してくれる委員の募集・呼びかけを行うと同時に委員会活動の活発化に併せて、協会の会員の獲得に力を入れた。出版活動、研修会活動には、日常の業務でもこれらの活動とかかわりを持っている人達への委員会活動への参加を呼びかけた。また、試験実施委員会と会誌編集委員会は、共に現在の活動の計画・内容および収支の視点では安定しているが、更なる活性化のためには委員の増員・増強策を考えて、多方面への呼びかけを行ったが、なかなか進んでいないのが現状である。

今年度、活発な活動と収支への貢献をしたのは、試験実施委員会と西日本委員会と研修委員会であった。試験実施委員会では、図書館・情報学の先生方との連携により、学生の基礎能力試験の受験者が増えたこともあり、申込み総数が1,000名を超えるという成果をあげた。研修委員会と西日本委員会との協力により昨年に続き東京・大阪にて、認定試験対策セミナーを実施した。また今年度は関西を中心とする人材会社および鳥取県の図書館活動グループから認定試験の説明会の要請があり、試験実施委員会と西日本委員会との連携による活躍がみられた。

8.2 広報委員会

協会活動の普及、拡大に向けて取り組んでおり、協会パンフレットの改訂版作成、会誌での研究部会の紹介(OUG,SIG)、メールマガジンの紹介を行った。

さらには、ホームページ改善に向けて作業を開始したが、引き続き次年度へ継続していく。

検討の場は、事業推進委員会、試験実施委員会、西日本委員会、研修委員会などよりの要望および運営委員会、事務局での起案により、事務局にて実行してきた。

8.3 西日本委員会

西日本委員会は12名の委員で構成し、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行ってきた。

特に今年度は従来からの「情報検索能力試験」対策セミナーが効を奏し、セミナー受講者の増加および情報検索能力試験受験者数の最高数(1000名突破)記録に寄与した。

また、新たな事業として「情報活動研究会」を(独)科学技術振興機構情報事業本部とともに誕生を支援してきた。

1) 普及研修事業

【講習会】4件

(1) 著作権法・個人情報保護法と図書館：2005年7月29日(金)中之島 中央公会堂

参加者：64名 講師：南亮一氏(国立国会図書館)

(2) サーチャー講座21：情報検索応用能力試験2級受験対策セミナー(2日間コース)

大阪会場：2005年9月23,24日 東京会場：9月10,11日(大阪の講師を派遣)

講師：岡紀子氏(住化技術情報センター)田中邦英氏(イシダ)

三村智子氏(大日本インキ)池田剛透氏(多摩大学)

参加者：111名(大阪46 東京65名)

(3) 情報検索基礎能力試験受験対策セミナー(1日コース)：2005年8月27日

大阪でははじめての試みであったが30名の参加者があった。講師：河塚幸子氏(関西大学)

(4) PubMed 活用術：2005年11月2日(水) 大阪産業創造館 参加者32名

検索実習つきセミナー 講師：羽田幸代氏(塩野義製薬)

【見学会】1件

国立国際美術館資料室、関西電力図書室 2005年5月20日(金)参加者30名

2) 会員交流会

(1) じょいんと懇話会：2005年12月9日(金)参加者34名

大阪地区のデータベース検索技術者認定試験合格者有志の会「IS フォーラム」と当協会共催で双方の会員および非会員で情報活動に関心の高い人との交流会を実施した。今年度の特徴は図書館関係に勤める人の参加者が多く、職種の拡がりが見えた。

(2) 2005年度情報検索応用能力・基礎能力試験「合格を祝う会」2006年3月11日(土)

参加者 17名(合格者)

3) その他

(1) 派遣会社(キャリアパワー社)からの要請を受け、第一線で活躍するサーチャーの紹介を兼ねたパネルディスカッションに参画しサーチャーの存在をPRした。(9月18日)

(2)「情報活動研究会」の発足支援

当協会会員はもとより西日本地区の情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽しあう研究会設立にむけ、(独)科学技術振興機構情報提供部とともに企画、広報などを支援し活動をスタートさせ新規会員増加の基盤作りに着手した。

8.4 表彰者選考委員会

第31回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 石井 浩氏、高橋和子氏
- ・教育・訓練功労賞 川村剛氏、真銅解子氏
- ・協会業務功労賞 (社)情報科学技術協会 西日本委員会殿

9 部会関連事業

9.1 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG)

4分科会の4人の主査がリーダーシップを発揮して、参加会員との話し合いで様々な企画が発案され、実行された。各分科会とも月に一回の定例会を基本として午後の3時間程度を使用して、検索演習やテーマを決めた研究と報告、情報関連機関の訪問や講演会の開催等を行った。内容的には各分野のデータベースの利用法だけでなく、そのバックグラウンドまで踏み込んだ情報の構造や使い方に関する問題も取り上げられており、分科会横断的なテーマも含まれるなど、今後の発展が期待される。また、2005年度は、情報プロフェッショナルシンポジウムで化学分科会が発表を行い、他の分科会も紹介ポスターなどの展示を行った。情報担当者の減少などで新規のOUG参加を得るには難しい現状があるが、情報初心者にとっては、心強いユーザー会となるはずであり、テーマ、時間、広報などを工夫しながらより多くの参加者が増えることを期待したい。

1) 化学分科会(主査:鈴木理加氏) 開催11回(8月休会)

開催11回(11月休会、8月臨時開催)

- ・講演会開催 「オープンアクセスと機関レポジトリ」(2005.4)
 - 「化学物質総合情報提供システムの紹介」(2005.9)
 - 「化学物質安全性データの標準化について」(2005.10)
- ・ベンダー訪問 科学技術振興機構(2005.5)
 - エルゼビア・ジャパン(2005.7)
 - 化学情報協会(2005.12)
- ・勉強会開催 テーマを決め、各自検索例を持ち寄った。また、各自疑問点を持ち寄って検討した。
- ・インフォプロ2005発表
 - OUG化学分科会の活動報告として、「Web化学物質検索システムの比較」を発表した。
- ・その他 データベースに限定せず、広く化学物質に関する内容を取り上げたことで、

ビジター参加が増加した。

2) ライフサイエンス分科会 (主査: 石井恵子氏): 11 回開催 (8 月休会、7 月は臨時開催)

講演会: 4 回

- ・「医中誌における研究デザイン用語付与の実際」および「医学用語シソーラスと UMLS について」
- ・「Thomson Pharma について」
- ・「STN のライフサイエンス系 DB の変更点」
- ・「情報検索手法の発展の跡をたどって」

検討会: 4 回

- ・「業務に役立つインターネットサイトの研究」
- ・「サーチエンジンの効率的な利用方法」
- ・「無料で利用できるデータベースについて: PubMed」
- ・「無料で利用できるデータベースについて: iyakuSearch」

見学会: 1 回

- ・政府資料等普及調査会

検索演習: 1 回

- ・下記テーマを各自検索し、全員で検討
 - ・アルツハイマー病をワクチンで治療している症例報告について
 - ・LDL 高値 (160) 透析患者の透析回路内で血液が乳び (白く濁った) した症例報告 (日・英)
 - ・小児糖尿病の疫学に関する文献
 - ・海馬補腎丸 (漢方薬) に関する英語文献

3) インターネット/ビジネス分科会 (主査: 渡邊 晃氏)

登録者: 39 名 (平成 17 年 4 月時点。前年度比 3 名)

(1) 開催: 計 11 回 (8 月を除く毎月 1 回@INFOSTA / 協会会議室)

参加者: 延べ 58 名、1 回平均 5.3 名 (4~8 名)

(2) 研究テーマ:

ビジネス 情報	A. 地域ランキング情報--農産物、製造品、その全国シェア (6 月) B. 食料自給率、低自給率品目と輸入先、食の安全情報 (9 月) C. 風力エネルギー市場情報--統計、企業動向、国別情報 (11 月) D. 印刷産業--大手企業、産業分類、IT 化対応状況 (12 月) E. 日本の資源輸入、循環資源の輸出入状況、両者の関係 (3 月)
その他の 情報源	F. 著作権に関する Q & A 情報 (4 月) G. 情報技術用語辞書、擬声語の外国表現 (1 月) H. 著作権 (ウェブサイトの引用、デジタルデータの扱い、他) (2 月)

インター ネットの 利用法・ 活用法	I. 検索エンジンの効果的利用法（4月）
	J. 特定分野の最新情報源の調べ方（5月）
	K. 翻訳機能の使用法（7月）
	L. 検索エンジンの機能（絞込み用、新登場、利用法サイト）（10月）

（3）交換したその他の有用情報：

新情報源（提供サイト、データベースなど）：34件

エンジン情報（機能、新エンジン、利用方法など）：28件

役立ち情報等（IT技術動向、ソフト活用法、他）：31件

（4）その他：

INFOPRO 2006の際に、展示室で他の分科会と同時に当会の紹介ポスターを展示し、勧誘用パンフレットの自由配布を行った（当会への新規参加申し込みは未だない。）
年度中の機関訪問の機会はなかった（平成18年度早い時期に訪問を企画中）
協会会誌2006年5月号特集「無料データベース」にビジネス編の投稿を準備した。

4) 特許分科会（主査:鈴木 利之氏）例会を原則として毎月第2金曜日に開催した。

- | | | |
|-----------|--------|--|
| 4月 8日 | 定例分科会 | 侵害予防調査の演習 |
| 5月 13日 | 定例分科会 | 侵害予防調査の演習（4月継続分）, 今後の運営・体制・人事について討議 |
| 6月 10日 | 定例分科会 | 各グループ（第1：検索, 第2：経過情報, 第3：データ活用, 第4：データベース研究）初回打合せ, 今後の運営・予定等について討議 |
| 7月 8日 | 定例分科会 | 今後の運営について説明, グループ研究活動 |
| 8月 | 休会 | 分科会全体としては夏季休会としたが、第1, 2, 3グループにて独自活動 |
| 9月 9日 | 定例分科会 | グループ研究活動, INFOPRO ブース展示, 合宿, ベンダーデモ 等について討議 |
| 10月 7日 | 特別セミナー | トムソンコーポレーション(株)にて OUG 特許分科会向け「DWPI」特別セミナー開催 |
| 10月 14日 | 定例分科会 | グループ研究活動, INFOPRO ブース展示, 合宿, ベンダーデモ 等について進捗状況・経過報告 |
| 11月 18日 | 定例分科会 | 全体会として「解析ソフトのベンダーデモ」開催（Aureka, TRUE TELLER） |
| 12月 9・10日 | 宿泊研修会 | 特許庁講師によるIPC第8版の解説, 特許無効化資料調査検索演習 |
| 1月 13日 | 定例分科会 | グループ研究活動, 新年会 |
| 2月 10日 | 定例分科会 | グループ研究活動 |
| 2月 17日 | 交流会 | 第3グループ特別オープンセミナー, SIG パテントド |

クメンテーション部会との交流会
3月10日 定例分科会 グループ研究活動

9.2 SIG

現在、技術ジャーナル部会、パテントドクメンテーション部会、分類/シソーラス/Indexing部会、Webサイト研究部会、ターミノロジー部会の5グループが、研修・研究の場として、各々独自の活動を行っている。

会員間の研修・研究の場としてのSIGのさらなる新しいグループが育ってくるのが、協会の今後の発展にとって重要であると考えていたが、2005年度で新たな部会の発足はなかった。

2005年度にSIGの運営規定の変更を計画した。その検討過程で現在最も重要なことは、SIGそれにOUGを含めた研究会の体制の今後のあり方であり、運営のあり方であるとの結論に達した。さらに、関西地区に情報活動研究会が発足したのを機に協会の研究会全体としてのあり方を検討してきた。

1) 技術ジャーナル部会〔会員企業：14社(コアパーソン：輪番)〕

奇数月の最終金曜日に、合計6回の会議を開催した(幹事は輪番制)。

会議は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。2005年度の議題は以下のとおりである。

- (1) これからの技術広報誌のあり方
- (2) 自社「技術ジャーナル」の市場測定方法と誌面への反映について
- (3) 技術ジャーナル編集の流れ
- (4) 各社技報を読者の視点で評価してみよう!
- (5) 各社における技報製作工程
- (6) 略語の表記について

2) パテントドクメンテーション部会/会員:7名(コアパーソン:桐山 勉氏)(毎月開催)

- (1) 階段昇降可能な車椅子の事例による Rapid Technology Intelligence Process 研究(1)を INFOPRO2005 シンポジウムにて発表した。
- (2) 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページで、活動状況を継続公開した。また、INFOPRO2005 シンポジウムでパネル展示に参加した。
- (3) OUG 特許グループと SIG パテントドクメンテーション部会との交流会; INFOSTA の初めての企画として2月度に行い、両グループから代表的な発表を1件ずつ行った。
- (4) Yahoo の e - Group にパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
- (5) World Patent Information 専門誌のトピックス記事3件を使い、記事紹介輪講会を行った。
- (6) 特別研修会を名古屋で6月に開催し、名古屋万博を見学し、階段昇降可能な車椅子の原型で「Segway」の実物をアメリカ館にて見学した。

(7)Fugman 理論の解説(3回シリーズ)の投稿準備として原稿作成開始に入った。

(8)知財関連月刊新聞の配本(特別無料サービス)

3) 分類/シソーラス/Indexing 部会 会員:17名 (コアパーソン:山崎 久道氏)(毎月開催)

当部会は、インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、理論および実務の側面から研究している。部会員は、研究者、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、検索等のシステム関係者などからなる。研究者もそのほとんどがかつて情報管理・情報検索の実務に従事した経験を有している。ほぼ毎月例会を開いて凝縮された討論を通じて研究を進めている。2005年度は、F. W. Lancaster (著) “Indexing & Abstracting in Theory & Practice 第3版”(University of Illinois, Graduate School of Library and Information Science)の会員による輪読を行った。

なお、当部会以外からも同種の研究を行っている Terminology 部会、旧中村塾からも参加者を募って2004年12月4日~5日、「ラフォーレ伊東」において分類に関する諸問題を広く討議する合宿を行ったが、この合宿における討議の記録は、会誌の2005年3月号に発表されている。

4) Web サイト研究部会 会員:10名(コアパーソン 橋田昌明氏) (毎月開催)

(1) 図書検索システム関係

本システムは企業内実務システムとして図書登録件数も増加し、順調に稼働を続けているが、引き続き細部改良等のメンテナンスを行った。

なお年度末に、図書システムの利用状況統計を作成する目的で、オープンソースのアクセスログ解析ソフト Analog の導入を行うと共に、現在は Windows 上で稼働しているシステムを Linux へ移植する試みなどにも着手した。

(2) 図書室業務への Xoops などの利用可能性の研究

本年度には、オープンシステムの Web 作成ツール Xoops などの図書室業務への利用可能性を研究することを目標としたが、会員の個人 PC への実装は行ったものの、それ以上進めることはできなかった。

実利用については、2006年度の課題としたい。

(3) Linux 関係

Linux については、本年度はディストリビューションのバージョンアップに伴い、会員各個人 PC でのバージョンアップインストールを試行した。

会員各人が実際に独自にインストールを行ったことで、Linux コマンドやツール類の使い方、Xwindow のトラブル対処法など、Linux への認識は深まりつつあるが、使い慣れた Windows とは異なっている点も多く、まだ使いこなすといった段階までには至ってはいないものかなりの進展を見ることができた。

(4) インフォプロ 2005 での紹介展示

2005 年 11 月に開催された「インフォプロ 2005 第 2 回情報プロフェッショナルシンポジウム」に、情報科学技術協会の活動紹介の一環として当研究会の紹介文を展示した。なお、紹介文は Microsoft Office 互換のオープンソースオフィススイツ「Open Office.org」を使い Linux 上で作成した。

(5) その他

その他、特別際だった成果とは言えないが、メンバーが日常的な場面で抱えた諸問題(自宅での無線ネットワーク環境の構築、FileMaker Pro で作成したデータベースの問題解決、PC のトラブル解決等々)について、相互に意見を出し合って解決することで、全員の PC や OS の基本についての理解、ネットワークに関する知識の向上を図ることができた。

5) ターミノロジー部会 会員:14 名(コアパーソン:太田泰弘氏) (隔月開催)

情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究を行うことを目的として、2004 年 5 月に設立。原則として隔月開催とし、2005 年度は 2 月までに 6 回実施した(3 月開催は次年度の前倒し)。

第 6 回(2005-04-08): 医薬関連英仏用語の対比(講師:竹中祐典)

第 7 回(2005-06-03): オントロジーとセマンティックコンピューティング(講師:
橋田浩一)

第 8 回(2005-07-22): CAS における用語管理(講師:時実象一)

第 9 回(2005-09-30): 言語と酒と食/ヨーロッパ諸都市の言語事情(講師:倉島節尚)

第 10 回(2005-12-09): ISO/TC37 ワルシャワ会議出席報告(講師:高野文雄)

第 11 回(2006-02-03): シソーラスと統制語索引: 索引の現場から(講師:木村美実子)

10. 関連団体との交流

1) 会員として加入

- ・機械振興協会 賛助会員(継続)
- ・科学技術振興機構 賛助会員(継続)

2) 他団体より後援を受けたもの

専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本データベース協会、日本図書館協会

3) 他団体に共催、後援、協賛したもの。[]内は主催団体名

- ・情報学シンポジウム [日本学会会議]
 - ・第 15 回整理技術・情報管理研究集会「TP&D フォーラム 2005」[TP&D フォーラム実行委員会]
 - ・第 17 回専門用語シンポジウム [情報知識学会]
- など